

市民スタッフ（G-free） 紹介

◆◆ 早川 潔 ◆◆



みなさん、こんにちは。市民スタッフの早川です。
私は、市民スタッフ発足当時からメンバーに加えていただいておりますが、実はここ数年は、活動にほとんど参加できていません。というのも、仕事の都合で下呂市のほうに転勤になってしまったからです。そんなわけで、休日に行われるイベントのお手伝いに年に1～2回程度参加しているだけというのが現状です。それでも、文化活動に関わっているという充実感と、人との交流の楽しさで続けてきました。これからも可能な限り続けていきたいと思っています。
関心はあるけど躊躇されているあなた。こんな私でも参加していますよ。気軽に参加してみませんか？

◆◆ 大野 博史 ◆◆ 主な担当：ぎふアジア映画祭 ◆◆



私が映画館通いを始めた80年代後期、アジア映画は「謎」の存在だった。スビルバーグに代表されるハリウッド映画でもなく、ヨーロッパの芸術映画でもなく、ましてや暗く貧乏臭い、マンネリ気味の日本映画とも違った。（今では考えられないことだが当時の日本映画ってそういうイメージだったのです）それは今まで観たこともないような種類の映画だった。おそらく、これらのアジア映画はそれぞれの国の、それぞれの観客に向けて作られたもので、日本人である私たちは最初から観客として想定されていなかったせいかもしれない。この疎外感、孤独感、しかし同時に感じる生々しさとなつかしさは何なのか？ 観れば観るほど謎は頭の中で渦巻くばかりであった。もしかして「映画」の本質って、こういうことなのだろうか？と漠然と思ったりもした。あれから二十年以上が経ち、アジア映画もそれ以外の映画たちも大きく姿を変えた。もう日本映画はマイナーな存在ではなくなったし、映画館は綺麗過ぎて気後れを感じるくらいだし、映画好きを自称するひとたちも驚くくらい増えた。いまやアジア映画は市民権を得て、特別な存在ではなくなったのだ。それは普通の映画として面白かったり、そうでなかったりするだけとなった。最初からそうだったのか、変わったのは自分の方なのかはよくわからない。しかし、今でも、映画を観ている時に、その中に昔、感じたあの不思議なつかしさをかすかに見つけることがある。どうやらアジア映画の「謎」は映画全体に伝播しているらしい。私には感じるものの出来なくなった「謎」はまだ画面の中に息づいているのだろうか。スクリーンから吹いていたあの風はまだ客席に届いているのだろうか。私の映画体験はいつもそんなかすかな嫉妬とともにある。

市民スタッフの活動 いろいろ

劇場での活動



影アナ
「本日は～」お客様を、声でご案内いたします。



記録カメラ・ビデオ
催しの記録を残します！



もぎり
お客様を笑顔でお出迎え！チケットをすばやくもぎります。



場内整理
お客様を安全に客席まで誘導いたします！

劇場以外での活動



イラスト
この活動誌のかわいいイラストも、G-free（市民スタッフ）が、書いています！！



HP製作
ぎふアジア映画祭のホームページ作成。

企画・運営以外の活躍を紹介！！

ひとりひとり自分に合ったかたちで、文化ボランティアに参加しています！！

G-free 後藤 洋子

平成22年も、色々なイベントのカメラマンとして活動しました。ここへ来ると、一刻の安らぎと元気をもらえる気がします。カメラを通して見るお客様の様子には、こちらまで期待に胸がふくらみ、お帰りのニコニコ満足された顔を拝見すると、市民スタッフとして活動できる喜びをかみしめます。

G-free 加藤 怜子

会場にいらしたお客様のチケットを拝見したり、会場案内やアンケートの回収などを行っています。普段自分で舞台を見に行く時はお客としてやってもらおう側ですが、スタッフとして表方をしていると、その舞台と一緒に作った様なやり甲斐を感じて楽しいです。

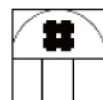
岐阜市民会館、岐阜市文化センターでの、さまざまな活動のお手伝いをしていただける文化ボランティアの仲間を募集しています。

岐阜市文化センター 058-262-6200



岐阜市民会館

〒500-8812 岐阜市美江寺町2丁目6番地
TEL 058-262-8111 FAX 058-262-8114
<http://gifu-civic.info>



岐阜市文化センター

〒500-8842 岐阜市金町5丁目7番地2
TEL 058-262-6200 FAX 058-262-6229
<http://gifu-culture.info>



G-free

第8号

平成23年2月5日

岐阜市民会館・岐阜市文化センター

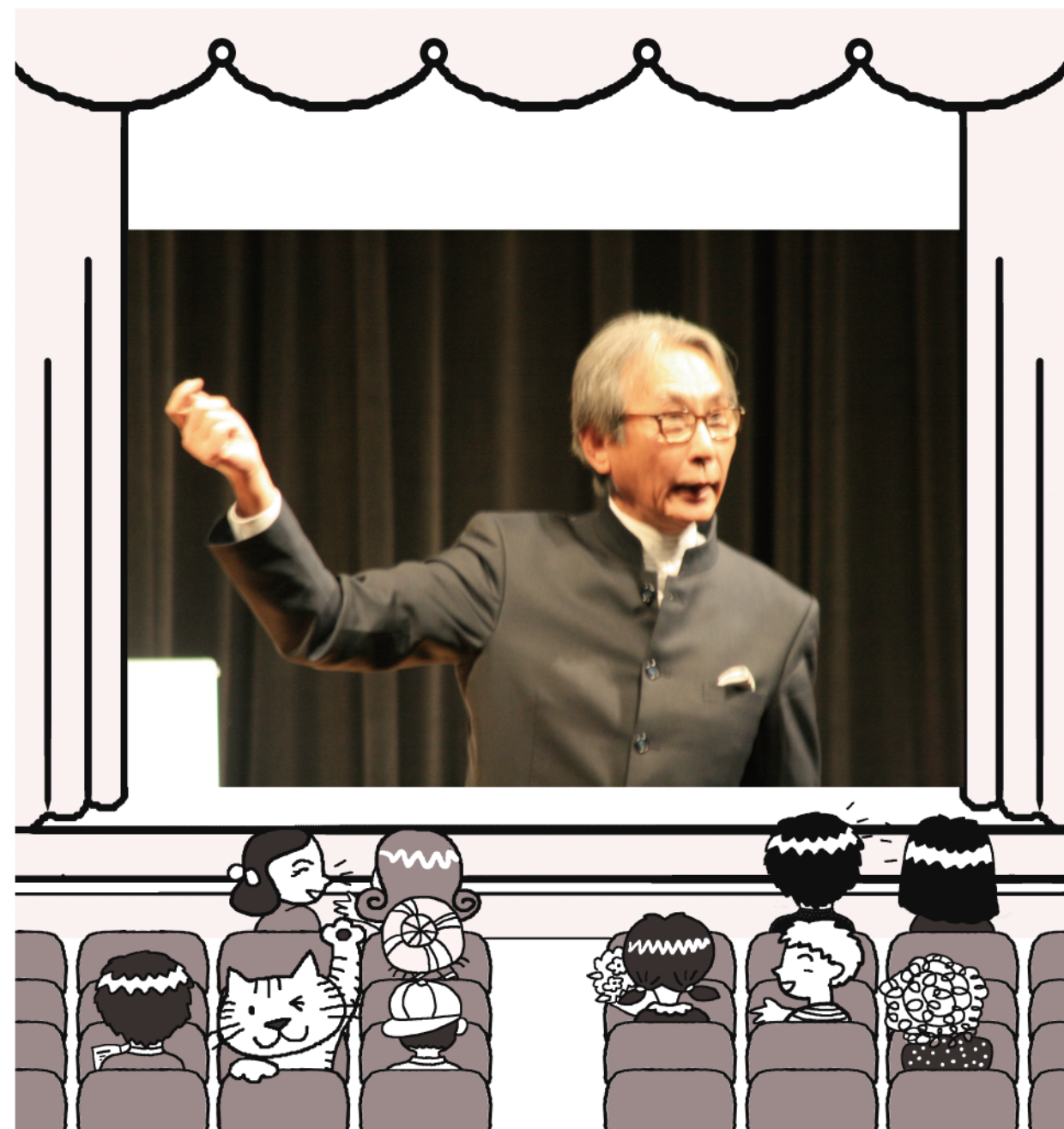
市民スタッフ活動報告誌



G-free

第8号

平成23年2月5日





初日は
「アイガー北壁」

山で始まり 山で終わった 第32回 りふアジア映画祭

最終日は
「劔岳～点の記」

りふアジア映画祭実行委員 大江 繁美

第32回「りふアジア映画祭」は、11ヶ国17作品を上映し、終了いたしました。多くの皆様に観ていただくことが出来て、たいへんうれしく思います。今年も、より魅力的な映画祭にするため、一歩ずつ前進していきたいとおもいます。

りふアジア映画祭 レポート 今年は2人の監督にお越しいただきました！！

「台湾人生」上映と酒井充子監督のトーク

G-free 山田 祥子



「台湾人生」は、1895年から51年間、日本の統治下の台湾で日本語教育を受けた5人の台湾の人たちのインタビューで構成されています。その中の1人は、二二八記念館でガイドをしていて過酷な人生が語られています。日本人観光客には親しみを感じるが、日本政府には納得していない。酒井監督は、あえて聞き取りにくい日本語に字幕はつけませんでした。映画でなくては表現できない選択です。日本の敗戦後は、中国国民党が台湾統治をし、二二八事件や白色テロなど台湾人弾圧が行われました。戒厳令は1987年によりやく解除されました。酒井監督は、新聞記者を経て映画制作に関わるようになりました。トークでは台湾での出会い、長期の取材、制作過程など話されました。酒井監督のサイン会もあり、一人ひとり丁寧に話されていました。

2009年12月に市民スタッフ4人で台湾旅行に行きました。京劇を観たり、二二八記念館やホウ・シャオシェン監督が理事長を務めるミニシアターなどを見学しました。私は、西門町（台北の原宿といわれている）の映画館に行きました。台湾映画はなくアメリカ映画「トワイライトサーガ ニュームーン」「2012」「ケース39」「ニンジャ・アサシン」が上映中で、英語の音声で中国語字幕でした。映画館大好きな私は大満足！映画「悲情城市」ロケ地で有名な九份は、赤いぼんぼりと坂道が懐かしい街並でした。台湾に行ったことで、より台湾の歴史文化に興味深くなり、台湾映画も今まで以上に観ようになりました。

「劔岳一点の記」・木村大作監督、岐阜へ

G-free 大江 美穂

昨年の9月から12月まで開催された第32回りふアジア映画祭、トリを飾ったのが、2009年夏に公開された映画『劔岳一点の記』、そして木村大作監督です。シネコンなどでも上映され大ヒットをしたメジャー作品を取り上げるのは、りふアジア映画祭では実は稀です。当日ロビーは、この日販売用のためにいしぐれ珈琲さんが特別にブレンドしてくださった「頂（いただき）珈琲」の香りに包まれ、映画上映無事終了。いよいよ木村監督の登場、、、。木村大作氏は1958年東宝に入社、背が高く元気そうという理由で撮影助手に配属され現場で、ゼロから技術と感性を培ってきた根っからの映画人です。そんな監督のお話は終始べらんめえ口調で、劔岳一点の記のこと、黒沢明監督のこと、高倉健さんのこと、次回作への情熱...とめどなく、マイクも使わず立ったまま身振り手振りのダイナミックなおしゃべり。当初30分程度だった予定時間はあっという間に1時間以上延長して、会場のお客様に話し掛けたりしながら面白おかしく、でもその話のいたるところに人生の哲学と信念が織り交ぜられていました。ああ、素晴らしいではないか、と本作を初めて観たとき受けた感覚は、監督ご本人からも同じように受けました。こちらの時間の都合でお話は切りをみて終了となりましたが、まだまだ話し続けてくださりそうな木村監督でした。トーク、サイン会もなんとか無事終わり、会場をあとにする監督の背中に「また岐阜に来てください！」そう思わず呼びかけたら、「呼んでくれたら来るよオッ！！」最後もやっぱり大作節で。新たな道が切り拓かれますように、祈っています、監督。ご来場くださった多くのお客さま、心より御礼申し上げます。



「劔岳一点の記」
デコレーションをした愛車で、岐阜にいらした木村監督。映画への愛情を感じます！！



りふアジア映画祭 1日ボランティア & 岐阜大学地域課のみなさん

私たち G-free（市民スタッフ）のほかに、アジア映画祭では毎年、1日ボランティアを募集し、チラシの送付・会場の受付・会場整理等のお手伝いをしていただいています。今年は、10人のボランティアのみなさんと、岐阜大学地域科学部のみなさんに活躍していただきました。映画祭のボランティアから、私たち G-free（市民スタッフ）の仲間になる方もいらっしゃいます！！

ボランティア最多の 10日間参加！！

田中 有梨さん

自分の為になるのではないかと
思い、ボランティアに参加しました。
アジア映画祭のボランティア
活動は充実感もあり、最終日は、
感無量でした。

岐阜大学地域科学部 野原 仁 先生

ふだん、大学のキャンパスの中で同年代の仲間とだけ接している学生にとって、りふアジア映画祭での実習は、地域住民の皆さんと接する数少ない機会であり、とても大きな刺激になっています。今後とも、よろしくお願い申し上げます！



市民スタッフ企画 vol. 8

映画上映 いつでも夢を & うたごえ広場 ～みんなでうたおう 懐かしの青春歌謡～

【開催日 平成 23 年 2 月 5 日（土）・6 日（日）岐阜市民会館 大ホール】



G-free 中島 幸子

昭和 38 年には、テレビではアニメの「鉄腕アトム」が始まり、九ちゃんの「上を向いて歩こう」がアメリカでも大ヒットし、新千円札の肖像が聖徳太子から伊藤博文に変わり……そしてこの「いつでも夢を」が発表されました。

今年の市民スタッフ企画では、歌を楽しんでいただくために、名作歌謡映画「いつでも夢を」上映することに、決定いたしました。上映後、岐阜で活躍するボーカルグループ先導のもと、お客様と一緒に歌う時間をたっぷりとりました。プロの伴奏に合わせて楽しい午後をお過ごしになっては如何でしょうか？かわいいうた集もご用意しております。会場ではコーヒーとパンの販売も予定しておりますが、毎年人気ゆえ、どうか売り切れにはご容赦ください。

職員、今までの市民スタッフ、それから大きな力を貸してくださった今年から参加した新しい市民スタッフが、皆さまのご来館をお待ち申し上げております。

市民スタッフ企画では 22 年度に G-free の仲間になった方々が 活躍されています！！

G-free 金子 国義

“市民の劇場 市民スタッフ”として今年初めての参加。本年度は昭和 38 年制作された「いつでも夢を」の上映と昨年好評だった懐かしい歌謡曲を拡大して歌おうの 2 本立てに決定。想定されるお客様は同世代であり、いつもお客さまの立場や思いで試写や内容検討等に参加。楽しい体験です。

G-free 山吉 文子

メンバーの皆さんと映画談義に花が咲き、いろんな企画を出し合って…今年「いつでも夢を」です。皆さんも市民スタッフに参加しませんか？